

木更津業務核都市基本構想の概要

基本構想変更の目的

木更津市を中心とする地域については、第5次首都圏基本計画において、かずさアカデミアパーク地区、木更津都心地区等、業務施設集積地区の整備とともに、交通結節点としての優位性をいかした業務、研究開発、物流機能等の集積を進め、さらに豊かな自然環境をいかし、多様なライフスタイルを実践する場として、多様な都市機能の充実が図られた業務核都市を育成・整備することとされており、平成4年に基本構想の承認を得ているところである。

かずさアカデミアパーク地区においては、企業の集積を促進するため、かずさDNA研究所等の研究シーズを活用した実用化・産業化に結びつく共同研究の展開が求められており、これに対応する産学官共同研究施設「かずさDNA研究所バイオ共同研究開発センター」を中核的施設として追加するとともに、業務核都市としての機能を向上させる。

基本構想の概要

1 構 想 名 木更津業務核都市基本構想

2 面 積 約9,779 ha

3 対象市町村名 木更津市（一部除く）及び君津市の一部

4 将 来 像

自然と都市サービスを併せ持ち、アメニティにあふれた創造的環境を醸成しつつ、国内各地と世界に直結した人、もの、情報の交流を活発化させ、千葉南地域の中核であるとともに東京湾臨海部の要の業務核都市を目指す。

5 整備の方針

木更津業務核都市においては、自然との調和、公共施設の整備等良好な職住環境の醸成に配慮しながら研究、工業、住宅、業務、物流等の機能の整備を図る。

業務集積地区として、かずさアカデミアパークにおいては、研究開発機能の集積を図るとともに、研究開発の成果等が応用研究や製品化につながるよう業務核都市内の有機的結合を図る。また、研究開発の一貫としてのバイオ関連産業等の立地を図るとともに、かずさアカデミアパーク地区、木更津都心地区に新たに導入する機能等の充実に対応し、房総の自然の中で高次の都市サービスを楽しむアメニティ豊かな居住環境を提供する。

6 業務施設集積地区及び中核的施設

業務施設集積地区	市町村名	面積	整備の方針及び中核的施設
かずさアカデミアパーク地区	木更津市 君津市	約 278 ha	房総丘陵の恵まれた自然環境を最大限生かした新しい国際水準の研究開発拠点の形成を核として、学術機能、生産機能、コンベンション機能等高次複合機能を有する都市として整備する。 < 中核的施設 > ・かずさDNA研究所 ・ かずさDNA研究所バイオ共同研究開発センター ・かずさアカデミアセンター
木更津都心地区	木更津市	約 195 ha	房総半島中央部における南北及び内陸部を結ぶ鉄道の結節点である木更津駅、多機能化が計画されている木更津港、さらに従来から地域の中核として発展してきた知識・経験を生かして、商業・業務機能の導入整備とこれに対応した居住機能の整備を図ることにより、豊かさを実感する市民生活の実現を図りつつ、木更津業務核都市の中心地区として整備する。 < 中核的施設 > ・海洋性レクリエーション施設

は、新しく追加された中核的施設

7 配慮事項等

業務核都市の整備の推進上不可欠である公共施設等の整備を図るとともに、環境の保全、地価の安定、適正かつ合理的な土地利用、業務機能と居住機能の調和等に配慮する。

かずさDNA研究所バイオ共同研究開発センターの概要（今回追加）

かずさDNA研究所が有する研究成果や解析技術を活用し、県内外の企業や大学等と植物に関する代謝産物の網羅的解析や産業上有用な酵素の探索など、実用化に向けた共同研究を行う場として設置する施設であり、共同研究室、質量分析機器室等が整備される。

本施設を核として、かずさアカデミアパークを植物・微生物に関する国内有数の研究拠点として形成することにより、新たな企業や研究機関の集積を促進することとしている。